

FUKUOKA



きりかね 伝統工芸こども鑑賞コース 截金体験講座



CONTENTS

教育の広場

オリンピック・パラリンピック教育実践のポイント
早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授 吉永 武史 …… 1

特集

○平成30年度福岡県教育文化表彰 [総務企画課] …… 3

○平成30年度福岡県とびうめ教育表彰式 [教職員課・高校教育課・義務教育課] …… 7

○がん教育の推進 [体育スポーツ健康課] …… 13

社会教育情報

○グローバル人材の育成に向けた宗像市の取組 [宗像市教育子ども部子ども育成課] …… 15

子どもの気持ち ～福岡県立福岡高等視覚特別支援学校～ [特別支援教育課] …… 17

「共創しよう！教育の未来」～教育センター経営方針及び事業の紹介～ [福岡県教育センター] …… 18

教育施設からの事業だより

○所蔵検索システム(Web OPAC)のリニューアルとブックトークのすすめ [福岡県立図書館] …… 20

○わくわくキャンプ [福岡県立英彦山青年の家] …… 22

○史跡指定から100年を迎えた大宰府史跡と、これから始まる戦争遺跡の調査 [九州歴史資料館] …… 24

お知らせ

人権・同和教育課/社会教育課/福岡県体育研究所
福岡県立少年自然の家「玄海の家」/放送大学福岡学習センター/
福岡県青少年科学館 …… 28

九州歴史資料館 展示品 名選No.37 [九州歴史資料館]

「教育福岡」はホームページ上で
見ることができます。

福岡県 検索

教育委員会>総務企画課>「教育福岡」をクリック

3/22

筑豊高校生活デザイン科「焼きスパ」試食会

筑豊高校生活デザイン科の代表生徒が、直方市を代表するご当地グルメ“直方焼きスパ”を普及するため、城戸教育長を訪問しました。生徒たちから焼きスパの説明を受けた後、生徒たちが調理した“焼きスパ”を試食しました。



4/1

平成31年度新規採用教育職員辞令交付式

県立学校に採用された教育職員の辞令交付式が県庁講堂で行われました。

式典では新規採用教育教員 318 名の氏名が読み上げられ、城戸教育長が代表の築城特別支援学校の津野田奈緒教諭に辞令を手渡しました。

その後、明善高等学校の松島拓路教諭が宣誓文を読み上げました。



4/19

平成31年度福岡県市町村教育委員会教育長会議

県庁講堂において、県内の各市町村教育委員会の教育長が出席する会議が開催されました。教育長から、学力向上、教職員の働き方改革、新しい時代に対応した教育の基盤となる ICT 環境の整備など本県教育を巡る課題について、また、教育庁教育総務部・教育振興部の両部から平成31年度福岡県教育行政の主要施策についての説明が行われました。



4/22

玄界高校フェンシング部教育長表敬訪問

平成30年度第43回全国高等学校選抜フェンシング大会において（サブプル学校対抗に出場）優勝したことを報告するため、水上校長らとともに、城戸教育長を表敬訪問しました。



今月の表紙「元気いっぱい子どもたち」

伝統工芸こども鑑賞コース きりかね 截金体験講座（文化財保護課）

日本に昔から伝えられる伝統工芸の魅力を子どもたちに知ってもらうため、毎年恒例の「伝統工芸こども鑑賞コース」が九州歴史資料館で開催されました。

今年は、江里朋子先生を講師に迎え、小学生22人が参加し、金箔を切り貼りして文様を描く古代技法「截金」の体験をしました。子どもたちは、先生から截金の歴史を学んだ後、図案を描き、その下絵を香合（お香の容器）の蓋に複写しました。絵具で色付けをした後に、円形や糸のような金箔を、にかわを塗って貼り付けました。最初はうまく貼れなかった子どもたちも次第に上手に貼れるようになり、思い思いの作品作りに取り組みました。体験作品は、平成31年2月6日から11日までの6日間、天神の福岡三越で開催された『第65回日本伝統工芸展福岡展』で展示され、多くの観覧者から好評を得ました。

オリンピック・パラリンピック教育実践のポイント

早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授 吉 永 武 史



オリンピック・パラリンピックの価値

私の記憶にあるオリンピック大会の1つに、1984年に開催されたロサンゼルス大会があります。当時小学6年生だった私は、柔道男子の無差別級の決勝戦で、同じ熊本県出身の山下泰裕選手がエジプト代表のモハメド・ラシュワン選手と対戦し、足の怪我の痛みに耐えながらも横四方固めで相手を押さえ込み、金メダルを獲得したことは今でも鮮明に覚えています。山下選手の一本が決まった瞬間、心の奥から熱いものが込み上げてくるとともに、苦難を乗り越え、自らの目標を達成することの尊さを学びました。このことは、その後の自らの人生にも影響を与え、さまざまな難局を乗り越えていく原動力にもなりました。

さて、開催まであと1年あまりとなった2020年の東京オリンピック・パラリンピック（以下、オリパラ）大会は、次代の社会の担い手である子どもたちにとどのような感動を与えてくれるでしょうか。オリパラには、次のような価値があるといわれています。

オリンピックの3つの価値

・・・「卓越性」「友情」「敬意・尊重」

パラリンピックの4つの価値

・・・「勇氣」「強い意志」「インスピレーション」「公平」

では、これらの価値を子どもたちに享受させるためには、オリパラ教育をどのように推進していけばいいでしょうか。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

スポーツ庁は2016年度より、オリパラ・ムーブメント全国展開事業をスタートさせました。本事業は、2020年に東京を中心に開催されるオリパラのムーブメントを全国に波及させることを目的とした事業で、スポーツ庁より委託を受けた全国拠点（早稲田大学を含めた3つの大学）と地域拠点が連携しながらオリパラ教育を実践したり、教員を対象としたオリパラ教育に関するセミナーを開催したりすることが主な内容となっています。2018年度は、全国35の地域でオリパラ教育が推進され、それぞれの地域の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校等の子どもたちがオリパラについて学びました。

多くの国や地域の事前キャンプが行われる、福岡県においても、当初から本事業に取り組まれており、推進校における実践の成果を県内の各学校に普及するなど、積極的に取り組んでいただいております。

オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた効果的な取組

事業がスタートした当初は、各学校がオリンピックやパラリンピアンを招聘し、講演会を開催する形式がほとんどでした。もちろん、オリ

ピアノやパラリンピアンと直接交流することは、子どもたちにとって貴重な機会になるのは言うまでもありません。しかし、そのような機会をより深い学びへとつなげていくためには、事前・事後学習を実施したり、各教科の学習と関連付けたりすることが重要なポイントとなります。例えば、あるパラリンピアンを招聘し、講演会を開催する場合、事前学習として、パラリンピアンが取り組んでいる競技について調べ学習などを行うことで、子どもたちはパラリンピックへ関心を高めます。そして、講演会後は、パラリンピアンのお話を振り返りながら、「障がいを持つ人たちのために自分たちができることは何か」について考えたり、仲間と議論したりする機会を設けることで、共生社会の実現に向けたノーマライゼーションを理解することにもつながります。

カリキュラム・マネジメントによるオリンピック・パラリンピック教育の充実

事前・事後学習の実施や各教科の学習との関連付けを効果的に進めていくためには、オリパラ教育を教育課程のどこに位置付けるかが課題としてあげられます。つまり、新しい学習指導要領の主な基本方針の1つでもある「カリキュラム・マネジメント」がオリパラ教育充実の鍵を握っているのです。体育科・保健体育科はもちろんのこと、社会科や道徳、総合的な学習の時間などとオリパラ教育をどのように関連付ければ、その学習効果が高めることができるかを十分検討する必要があります。例えば、札幌市の小学校では、3年生の社会科と関連付ける形でオリパラ教育が行われており、子どもたちはオリンピックミュージアムを見学し、1972年に開催された冬季オリンピックによって札幌市内の公共施設が整備されていたことを学んでいます。また、香川県内のある高校の文化祭では、生徒たちが中心となってオリパラ展を開催し、オリパラについての調べ学習の成果をオリパラ新聞という形で紹介したり、ボツ

チャの体験コーナーを設けて来場者にルール説明を行ったりするなど、生徒主体でオリパラ教育が実践されていました。

誰もが享受できるオリンピック・パラリンピックの価値

ある特別支援学校にパラリンピアンの浦田理恵選手を招聘し、ゴールボールの実技指導を行っていただいたことがありました。体育館までの移動をエスコートする際、浦田選手から「背が高い方なんです」と言われました（私の身長は180cmを超えています）。目が見えないのに「なぜ分かったのですか」と尋ねたところ、「少し上の方から声が届きますからね」と笑顔で答えてくれました。視覚に障がいがある人たちが、音がどこから聞こえるかによって人や物の位置を把握されることを私はそれまで知りませんでした。その日以来、視覚障がい者の方々と接するときには、どの位置から話しかけるかを常に意識するようになりました。

また、サッカーの元日本代表の福田正博さんは、教員を対象としたオリパラ教育セミナーで、「子どもができることを伸ばしてあげてください。そうすると、子どもはもっと上手になりたいと思うようになりますので、苦手なことにも積極的にチャレンジするようになりますから」というメッセージを送られていました。このことはまさに、子どもの内発的動機づけを高め、主体的な学びを促すという、これからの学校教育に求められる教育のあるべき姿にもつながるものだったといえます。

このようにオリパラの価値に触れることができるのは、何もオリパラ教育を受ける側の子どもだけということではありません。オリパラ教育を行う先生方にとっても意味のある経験になることでしょう。ぜひ、オリパラ教育を実践していただければと思います。

特集

平成30年度福岡県教育文化表彰

総務企画課

福岡県教育委員会では、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に貢献し、その功績が特に顕著と認められる個人、団体及び学校その他の教育機関について業績を表彰し、本県教育の振興に資することを目的として、「教育文化表彰」を実施しています。

表彰件数の内訳

部門・分野		個人	団体	計
児童生徒の部		15	20	35
一般の部		24	12	36
一般の部 内訳	社会教育部門	2	7	
	体育・スポーツ部門	2	3	
	学校保健部門	9		
	教育行政部門	3		
	学校教育部門	8	2	
計		39	32	71

今年度は、個人68件、団体37件、総数105件の推薦から、厳正な選考の結果、個人39件、団体32件、計71件の受賞を決定しました。（受賞者・団体名は次ページのとおり。）

表彰式は3月16日（土）に福岡リーセントホテルで行い、受賞者には表彰状と記念品を贈呈しました。受賞者を代表して福岡県立福岡工業高等学校ラジオ部の高田稜さんが受賞理由であるワイヤレス電力伝送技術の研究について「電力電送する技術、受電対象となる装置を選択できるシステムを開発することができた。研究を続けてこられたのは、先生、家族、先輩達などのおかげであり、今後も社会貢献できるように誇りをもって研究を続けていきたい」と述べました。



受賞者代表あいさつ



教育長あいさつ

ここでは、特色ある受賞者の功績概要を紹介
します。

○「児童生徒の部」(個人)

・福岡市立愛宕小学校

2年 江見 一夏(えみ いちか)

第66回統計グラフ全国コンクール第1部にお
いて、文部科学大臣賞(特選)を受賞している。



・上毛町立友枝小学校

1年 桑原 凜(くわばら りん)

平成30年度(第70回)明るい選挙啓発ポスター
コンクール小学生の部において文部科学大臣・
総務大臣賞を受賞している。教育文化表彰の歴
代最年少記録を更新している。



○「児童生徒の部」(個人)

・みやま市立高田中学校

3年 永江 孝二郎(ながえ こうじろう)

(写真右)

3年 野田 楓磨(のだ ふうま)(写真左)

第3回世界ジュニアソフトテニス選手権大
会U-15の部ダブルス及び第29回都道府県対
抗全日本中学生ソフトテニス大会男子個人戦
ダブルスにおいて優勝している。



○「児童生徒の部」(個人)

・北九州市立高等学校

3年 山口 真実(やまぐち まみ)

福岡県タレント発掘事業の修了生であり、
平成30年度全国高等学校総合体育大会陸上競
技大会女子800m及び第73回国民体育大会
女子競技少年女子共通800mにおいて優勝
している。



○「一般の部 学校教育部門」(団体)

・福岡県立福岡工業高等学校

工業技術者に必要な専門知識や、ものづくりに技術に加えて発想力や想像力を高める教育にも積極的に取り組んでおり、知的財産を活用できるものづくり人材育成を行っているということが評価され、第7回ものづくり日本大賞文部科学大臣賞(青少年支援部門)を受賞している。



児童生徒の部

○個人

福岡市立愛宕小学校

上毛町立友枝小学校

福岡雙葉高等学校

福岡県立福岡高等学校

福岡県立太宰府高等学校

福岡県立大川樟風高等学校

福岡県立苅田工業高等学校

東福岡高等学校

北九州工業高等専門学校

みやま市立高田中学校

みやま市立高田中学校

祐誠高等学校

祐誠高等学校

東福岡高等学校

北九州市立高等学校

○団体

田川市立鎮西中学校

福岡市立姪浜中学校吹奏楽部

精華女子高等学校吹奏楽部

福岡県立福岡工業高等学校ラジオ部

福岡工業大学附属城東高等学校吹奏楽部

福岡県立明善高等学校化学部

福岡県立門司学園高等学校吹奏楽部

福岡県立八幡中央高等学校書道部

中間市立中間東中学校男子卓球部

福岡県立青豊高等学校ダンス部

中村学園三陽高等学校ヨット部

中村学園女子高等学校剣道部

久留米市立南筑高等学校女子柔道部

福岡工業大学附属城東高等学校ダンス部

福岡第一高等学校男子バスケットボール部

福岡第一高等学校ボウリング部

第53回全国都道府県対抗自転車競技大会

福岡県女子選手団

第32回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

福岡県選抜男子チーム

第13回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

福岡県中学生選抜チーム

第73回国民体育大会バスケットボール競技会

少年男子福岡県選手団

一般の部

社会教育部門

○個人

福岡県公民館連合会 前会長 中嶋 裕史

一般社団法人カールスカウト福岡県連盟

前連盟長 藤松 光江

○団体

北九州市立田野浦小学校PTA

苅田町立南原小学校PTA

福岡市立若宮小学校PTA

福岡県立田川高等学校PTA

飯塚の歴史を語る会「日有喜」

田川市立図書館

はらっぱの会

体育・スポーツ部門

○個人

日本大学 貝原 涼太

九州産業大学 片山 花女

○団体

第10回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

福岡県チーム

第73回国民体育大会自転車競技会

男子福岡県選手団

第73回国民体育大会柔道 女子福岡県選手団

学校保健部門

○個人

一般社団法人福岡市医師会 学校医 岡田象二郎

一般社団法人福岡市医師会 学校医 緒方 佳晃

公益社団法人北九州市医師会 学校医 藤井 清一

一般社団法人小倉歯科医師会

学校歯科医 久保 哲郎

一般社団法人大川三瀦歯科医師会

学校歯科医 松藤 幸治

一般社団法人八女筑後歯科医師会

学校歯科医 柳迫 正俊

一般社団法人若松薬剤師会

学校薬剤師 小野 勝友

一般社団法人福岡市薬剤師会

学校薬剤師 富永 計久

一般社団法人飯塚薬剤師会

学校薬剤師 松岡 央

教育行政部門

○個人

宮若市教育委員会 元委員長 北崎 洋子

水巻町教育委員会 元委員長 原 弘

苅田町教育委員会 元委員長 矢鳴ミツ子

学校教育部門

○個人

筑紫野市立原田小学校前校長 井口 司

北九州市立大里柳小学校前校長 佐藤 文俊

桂川町立桂川小学校前校長 辻 秀志

小郡市立大原中学校前校長 松枝 昭生

北九州市立門司総合特別支援学校前校長

金田 孝一

福岡県立北九州高等学校校長

久保 英二

福岡県立新宮高等学校校長

谷口 茂敏

福岡県立直方高等学校校長

吉丸 昌明

○団体

久留米市立江上小学

福岡県立福岡工業高等学校

平成30年度福岡県とびうめ教育表彰式

教職員課・高校教育課・義務教育課

平成31年1月7日(月) 県庁講堂において、「福岡県とびうめ教育表彰式」を行いました。

本表彰式は、県内教職員の優れた教育活動に対し、その努力をたたえ、更なる教育の振興を図るため、次の4部門の合同表彰式として平成27年度から実施しています。

1 表彰の種類(部門)と目的

「福岡県公立学校優秀教職員表彰」は、日々の授業や生徒指導等に優れた能力を発揮し、学校運営等に大きな成果を上げている教職員を顕彰すること、広く教職員の意欲及び資質・能力の向上を図ることを目的としています。

「福岡県公立学校教育マイスター表彰」は、特定の分野や領域において優れた指導力と専門性を有し、効果的な実践をしている教職員を「ふくおか教育マイスター」として認定し、その技術や知恵を若手教職員に伝承することを目的としています。

「ふくおか教育論文表彰」は、教育課題の解決に取り組んだ教育実践に関する論文を募集すること

で、教育関係者の意欲喚起及び人材の育成を図るとともに、優れた教育実践の普及を図り、県内の教育活動の充実に資することを目的としています。

「福岡県公立学校優秀校表彰」は、学校の特色ある教育活動を顕彰することを目的としています。県立学校部門は経営改善、教育内容改善、キャリア教育、生徒指導、グローバル人材育成の5つの部門で、市町村立学校部門は確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、障がいのある児童生徒の自立や社会参加、信頼される学校づくりの5つの部門で募集しています。

2 表彰式等

表彰式では、城戸秀明県教育長から、各部門の代表者等に表彰状が授与されました。

各部門の代表者・代表校は次の3名・2校です。
 「福岡県公立学校優秀教職員表彰」

大牟田市立宮原中学校

主幹教諭 杉野 浩二

「福岡県公立学校教育マイスター表彰」

福岡県立小郡特別支援学校

栄養教諭 福島 由佳里

「ふくおか教育論文表彰」

大野城市立平野中学校

副校長 日下部 達矢

「福岡県公立学校優秀校表彰」

小竹町立小竹北小学校

福岡県立福岡工業高等学校

表彰状授与後、各部門の代表者は、受賞の喜びとともに自身の教育実践内容や今後の展望について、それぞれ挨拶を行い、福岡県公立学校優秀校表彰部門の代表校から表彰内容の発表が行われました。

平成30年度の受賞者数は、「福岡県公立学校優秀教職員表彰」が33名、「福岡県公立学校教育マイスター表彰」が20名、「ふくおか教育論文表彰」が43名、「福岡県公立学校優秀校表彰」が7校で、表彰式後の表彰状伝達式において各部門代表者を除く全受賞者に県教育委員会から表彰状が授与されました。受

賞された皆様の教育に対する熱意と実績が、学校組織に活力をもたらし、本県全体の教育力の向上につながることを期待しています。

福岡県公立学校優秀教職員表彰部門

県教育委員会においては、平成20年度に福岡県公立学校優秀教職員表彰制度を創設し、表彰を実施しており、平成26年度から表彰の対象者を、事務職員等を含む教職員に拡大しました。

平成30年度の被表彰者は、次の33名です。

(順不同・敬称略、学校名及び職名は表彰時のもの)

〔小学校〕

古賀市立小野小学校	養護教諭	佛坂 啓子
糸島市立前原小学校	教諭	吉村 圭司
遠賀町立広渡小学校	主幹教諭	高原 敏之
うきは市立吉井小学校	教諭	伊東 勇治
八女市立黒木小学校	主幹教諭	中村 修介
上毛町立南吉富小学校	栄養教諭	高橋 欣子
宗像市立自由ヶ丘小学校	教諭	飛永 恵子
須恵町立須恵第一小学校	主幹教諭	松本美紀子
筑前町立三並小学校	教諭	重富乃里子
広川町立下広川小学校	主幹教諭	今村 洋
吉富町立吉富小学校	指導教諭	坂山 文利

〔中学校〕

那珂川市立那珂川南中学校	教諭	森 美沙子
福津市立福岡中学校	主幹教諭	阿部 泰治
糸島市立前原東中学校	主幹教諭	金嶽 倫世
小郡市立三国中学校	指導教諭	畑中 隆雄
久留米市立青陵中学校	主幹教諭	須田新之介
大牟田市立宮原中学校	主幹教諭	杉野 浩二
田川市立中央中学校	教諭	加治 芳教
田川市立後藤寺中学校	教諭	佐藤 正子
行橋市立中京中学校	主幹教諭	山田真太郎
新宮町立新宮中学校	教諭	北原 恵美
桂川町立桂川中学校	主幹教諭	鎌田由美子
久留米市立青陵中学校	事務主査	堀 典子

〔高等学校〕

福岡県立香椎高等学校	教諭	西島 美加
福岡県立福岡高等学校	養護教諭	浅倉真樹子
福岡県立玄界高等学校	教諭	松尾 博人
福岡県立八幡中央高等学校	教諭	岡田 由美
福岡県立八女農業高等学校	主幹教諭	野中 格
福岡県立小倉高等学校	主幹教諭	高野 進
福岡県立嘉穂東高等学校	教諭	大塚多恵子
福岡県立久留米筑水高等学校	事務次長	栗木 伸子
福岡県立福岡特別支援学校	主幹教諭	延命 典子
福岡県立築城特別支援学校	主幹教諭	谷口 好美

〔特別支援学校〕

〔福岡県公立学校優秀教職員表彰〕



市町村立学校



県立学校

文部科学大臣優秀教職員表彰

文部科学省においては、学校教育における「学習指導」「生徒指導・進路指導等」「学校体育や学校保健、学校給食」「部活動等」「特別支援教育」「地域との連携・協働」「国際交流等」「学校事務の機能強化等」「その他、他の模範となるような実践」という9つの基準における教育実践等に顕著な成果をあげた教職員等について、その功績を広く周知し、あわせて我が国の教職員の意欲及び資質能力の向上に資することを目的として、文部科学大臣優秀教職員表彰が実施されています。

平成30年度は、本県公立学校優秀教職員表彰受賞者のうち、24名の方々が受賞し、平成31年1月15日に東京で表彰式が執り行われました。

福岡県公立学校教育マイスター表彰部門

ふくおか教育マイスターに認定された20名の先生方は、2年間にわたり、本県全体の教育の質の向上のため、所属校はもとより、他校の教職員等に対する教育相談や公開授業、実技指導等の活動を行っています。

平成30年度における被表彰者と表彰を受けた特定分野での取組等は、次のとおりです。

(順不同・敬称略、学校名及び職名は表彰時のもの)

〔市町村立学校〕

- 朝倉市立大福小学校 教諭 有田 敦美
- 《特別支援教育》特別支援教育の推進
- 柳川市立蒲池小学校 教諭 幸田 美穂
- 《学級経営》学級経営及び特別支援教育の推進
- 筑前町立三輪小学校 教諭 櫻木 裕子
- 《特別支援教育》特別支援教育の推進
- 筑紫野市立原田小学校 教諭 白井 晴美
- 《算数》ICT活用による算数教育の推進
- 古賀市立花鶴小学校 教諭 平 高範
- 《人材育成》若手教員の人材育成
- 飯塚市立穂波東小学校 教諭 中川 展秀
- 《人権教育》人権教育の推進
- 筑紫野市立原田小学校 教諭 萩尾万里子
- 《JRC教育》JRC(青少年赤十字)教育活動の推進
- 古賀市立花見小学校 教諭 宮川 秀樹
- 《生徒指導》生徒指導及び若手教員の人材育成

八女市立筑南小学校 教諭 山田 孝子

《学級経営》学級経営における挑戦課題の設定

柳川市立垂見小学校 養護教諭 吉山 祐子

《健康教育》健康教育の推進

桂川町立桂川中学校 教諭 岡本 一郎

《生徒指導》生徒指導及び道徳教育の推進

古賀市立古賀中学校 教諭 熊谷 勝己

《特別支援教育》特別支援教育の推進

朝倉市立甘木中学校 養護教諭 小林智代美

《健康教育》健康教育の推進

八女市立南中学校 教諭 原島 只吉

《生徒指導》生徒指導及び部活動における指導

小郡市立小郡中学校 教諭 福田 勝則

《理科》理科教育の推進

〔県立学校〕

福岡県立小郡特別支援学校 栄養教諭 福島由佳里

《食育》食育の推進

福岡県立水産高等学校 教諭 押場 昭人

《水産》水産分野における教科指導及び

実習船資質基準制度整備

福岡県立宗像高等学校 教諭 羽生 禎伸

《理科》理科分野における教科指導及び部活動指導

福岡県立八女工業高等学校 主任実習助手 田村 崇

《工業》工業分野における教科指導

福岡県立嘉穂東高等学校 教諭 竹尾 千里

《外国語》外国語分野における教科指導

〔福岡県公立学校教育マイスター表彰〕



市町村立学校



県立学校

ふくおか教育論文表彰部門

〔本年度の応募状況〕

平成30年度の応募総数は299点でした。応募者のうち、職歴5年以下が全体の60%、10年以下を含めると全体の約70%になり、若年教員の積極的な応募が見られます。教育論文を書くことは、これまでの自分の実践を振り返り、自分で気付かなかった価値や課題を見出し、更なる教育実践の充実につながります。今後も積極的な応募を期待します。

〔優秀賞受賞作品〕

平成30年度の優秀賞受賞作品は、次の3点です。

研究主題

教職員の協働力が高まる組織運営の実践

大野城市立平野中学校

副校長 日下部 達矢

（講評）

学校における人材育成体制の構築は、喫緊の課題であり、人事評価に係る自己評価表の積極的な活用並びに、評価場面としての定期面談の充実によって課題解決を目指す本研究は、大変価値あるものです。特に、主幹会や主任会を設置し、エンパワーメントを発揮させるための働きかけを重点的に行ったことは、職員の協働性の向上に繋がっています。

副校長として、人事評価に係る定期面談、組織づくりやOJT推進等のあらゆる場面でリーダーシップを発揮し、対象職員のモチベーションを向上させ、職能成長を促した様子がよく分かります。

研究主題

主張と材料の整合性を吟味して適切に表現する力を育てる第6学年国語科学習指導

糸田町立糸田小学校

教諭 楠木 文太郎

（講評）

学習指導要領における国語科の目標では、日常生活

活における様々な場面で主体的に活用できる、生きて働く「知識及び技能」を習得させることが重要であると述べられています。児童に日常的に表現する目的をもたせ、筋道の通った文章が書けるようになるために、「論証の構造」を活用させようとした本研究は、これからの国語科の方向性を見据えた大変意義ある研究だと言えます。実践からも、目的意識をもって、読み手の立場から自分の書いた文章を見直す活動を継続することを通して、児童の意欲が向上していることが分かります。

研究主題

家庭教育を支援する社会教育主事による

派遣事業の展開

北筑後教育事務所

社会教育主事 矢野 沙織

（講評）

近年の社会状況を考えると、家庭の教育力の向上は急務であり、それを支える地域の教育力の向上や仕組みづくりが重要となっている中で、家庭教育を支援する地域の人材を発掘・育成するために、社会教育主事のコーディネートでの在り方を究明する本研究は大変価値ある取組です。

特に、家庭教育支援チームの立ち上げや各地域で効果的に関わることができるように、地域のニーズに対応した人材派遣に向けて支援チームメンバーの特性を多面的に分析し、的確な人材を派遣されています。また、社会教育主事の役割を研究者の理論をもとに構想するとともに、コーディネートの手順や

内容について、複数の団体を対象に工夫・考察し、継続的に取り組まれている点は、支援チーム立ち上げ段階の一方途としても今後参考となる実践であると考えます。

〔教育論文を作成する際の留意点〕

今後、教育論文を作成する際には次の点に留意してください。

- (1) 研究内容に教育的価値があり、研究成果が多くの教育関係者に波及することを意識した主題である。
- (2) 研究の構想は明確で研究のねらいと対応しているとともに、先進的な取組を意識したものである。
- (3) 一定期間、継続して取り組むとともに、PDC Aサイクルによって実践の積み上げを図っている。
- (4) 考察は、研究構想に基づき、客観的な資料、具体的な事実を適切に用いて行われている。
- (5) 言葉の概念規定が明確で、読みやすい文章表現になっている。

【優秀賞】

平成 30 年度「ふくおか教育論文」入賞者（優良賞以上）一覧

主題	所属	職名	氏名
教職員の協働力が高まる組織運営の実践	大野城市立平野中学校	副校長	日下部 達矢
主張と材料の整合性を吟味して適切に表現する力を育てる第 6 学年国語科学習指導	糸田町立糸田小学校	教諭	楠木 文太郎
家庭教育を支援する社会教育主事による派遣事業の展開	北筑後教育事務所	社会教育主事	矢野 沙織

【優良賞】

主題	所属	職名	氏名
キャリアステージに応じた人材育成	那珂川市立岩戸小学校	教諭	櫻井 しのぶ
自らの心身の健康に関心をもち、よりよい生活習慣に向けて実践することのできる児童の育成	志免町立志免中央小学校	養護教諭	栗原 みなみ
自己を見つめ、これからの生き方について考えを深める児童を育てる道徳科学習指導	直方市立直方北小学校	教諭	酒井 梢
仲間とつながる子供を育てる学級活動（1）の指導	うきは市立大石小学校	教諭	池田 明日奈
統合的に考察する力を育む算数科学習指導	うきは市立御幸小学校	教諭	三島 裕一
数学的に考える子どもを育てる算数科学習指導	うきは市立吉井小学校	教諭	伊東 勇治
子どもの学ぶ意欲を高める第 3 学年家庭学習の指導	大牟田市立天の原小学校	教諭	柿園 綾香
よりよい合意形成ができる力を育む学級活動	みやま市立水上小学校	教諭	須崎 恵実

【ふくおか教育論文表彰】



優秀賞受賞者



優良受賞者



佳作賞受賞者



奨励賞受賞者

福岡県公立学校優秀校表彰部門

【県立学校】

【経営改善部門】

学校活性化のための取組や他校種・地域・企業等

との連携、学校の専門性を発揮した活動を表彰するものです。

福岡工業高等学校（最優秀校）

知的財産教育を基軸にしたものづくり人材育成を柱として学科の特色を生かした教育を推進しています。ものづくりを通じた地域貢献や高大連携を行い、昨年は、第 7 回ものづくり日本大賞文部科学大臣賞を受賞されました。学校の特色を生かした各種の取組に獨創性、継続性が見られるとともに外部資源を活用している点が評価されました。

【教育内容改善部門】

授業改善や教材開発、教育課程に関する研究など効果的な取組や成果を表彰するものです。

北筑高等学校（優秀校）

個々の教員の取組だけでなく、組織的な校内推進体制、アクティブ・ラーニング型の職員研修、環境整備等、様々な視点で他の県立学校のモデルとなる点が評価されました。

【キャリア教育部門】

児童生徒等の進路実現における効果的な取組や成果などを表彰するものです。

八女工業高等学校（優秀校）

資格試験等において、ジュニアマイスター顕彰制度を活用し、取得者数全国第1位になっています。また、PTAと連携し、キャリア教育に関する保護者向け研修や卒業生を招聘した取組は、進路決定の一助となっています。さらに、女子生徒を支援する女子生徒支援課を創設した取組が評価されました。

筑後特別支援学校（優秀校）

「個別の教育支援計画ICF版」や「学習内容段階表」を作成・活用し、小学部から高等部まで体系的な指導を行うことにより、発達段階に応じた着実な指導が実現されています。また、児童生徒に学部を越えて見学やかかわりの機会を設定している点も独創性の価値ある取組として評価されました。

〔生徒指導部門〕

生徒指導を推進し、自己指導能力の育成や児童生徒等の健全育成における効果的な取組や成果を表彰するものです。

○該当校無し

〔グローバル人材育成部門〕

英語教育をはじめ、グローバル人材育成における効果的な取組や成果を表彰するものです。

○該当校無し

〔市町村立学校〕

市町村立学校部門は、(1)確かな学力の育成(2)豊かな心の育成(3)健やかな体の育成(4)障がいのある児童生徒の自立や社会参加(5)信頼される学校づくりに向けた育成や学校経営・運営を観点に、いずれか一つ以上において、当該学校の実態に応じて効果をあげる工夫のもとに特色ある取組を継続して行い、その成果が顕著な市町村立学校を表彰するものです。

小竹町立小竹北小学校（確かな学力の育成）

学習基盤づくりの徹底と主体的な学び合いの推進を中心に研究をすすめ、学力向上プランの検証改善ロードマップを作成し、全教職員による組織的・計画的な授業改善に取組み、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていることが評価されました。

篠栗町立勢門小学校（健やかな体の育成）

毎朝15分間のジョギング、週2回の体幹を整えるための自作のリズム体操に加え、楽しんで体力を高める課題解決的な「活動プログラム」をとおして、体力向上に効果的に取り組んでいることが評価されました。

古賀市立古賀東中学校（信頼される学校づくり）

毎週2回及び定期考査前の1週間、朝の40分間を活用した自主学習の取組である「朝勉」と「朝勉」の終了後、朝食を提供する取組である「朝弁」の「朝

勉&朝弁」の取組を行っています。この取組を進める委員会を組織し、保護者・地域と連携した学校運営によって、生徒の生活習慣の改善と学力向上をうながした取組が評価されました。

【問い合わせ先】

〔福岡県公立学校優秀教職員表彰部門〕

教職員課管理免許係

TEL 092 (643) 3894

〔福岡県公立学校教育マイスター表彰部門〕

教職員課県立学校係・市町村立学校係

TEL 092 (643) 3893

〔ふくおか教育論文表彰部門〕

義務教育課指導班

TEL 092 (643) 3910

〔福岡県公立学校優秀校表彰部門〕

高校教育課指導班（県立学校）

TEL 092 (643) 3905

義務教育課指導班（市町村立学校）

TEL 092 (643) 3910

特集

がん教育の推進

体育スポーツ健康課

○はじめに

今、なぜ学校でがん教育が必要なのでしょう。か。

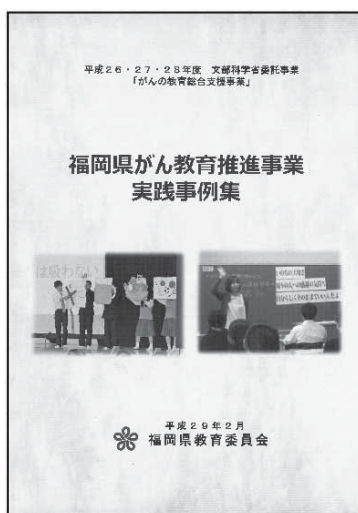
がんは現在日本において死因の第1位であり、生涯のうち、国民の2人に1人が罹患するとされていることから、重要な健康課題であり、健康に関する基礎的教養として、がんに関する科学的根拠に基づいた知識等を身に付けておく必要があります。

しかし、医学の急速な進歩等により、がんを取り巻く状況は変化しているにもかかわらず、がんに対する関心の低さや「がんは不治の病」といった認識が未だに残っているなど、がんに関わる教育が不十分であることが指摘されています。これらのことから、各学校において、がん教育を行うことにより、子供たちががんについて正しく理解するとともに、がん患者やその家族の方等、がんに向き合う人々に対する認識を深める必要があります。

○本県のがん教育の取組

本県では、平成26年度からがん教育の取組

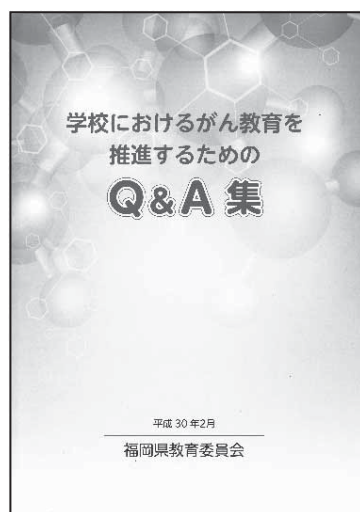
をはじめ、28年度までの3年間で9校の小・中・高等学校で外部講師を活用した実践研究に取り組みました。その成果を実践事例集にまとめ、県内各学校に配布し、がん教育の普及を図っています。



実践事例集

平成29年度は、学校におけるがん教育について、指導者の理解を深め、がん教育の充実を図ることを目的に、学校の先生方をはじめ、外部講師を対象に「がん教育指導者研修会」を開催しました。併せて、各学校において、がん教育の取組を始める際の手がかりとなるよう、また、実践する上での疑問を解決できるように、県内の先生方から寄せられた質問を

中心に取り上げた「学校におけるがん教育を推進するためのQ&A集」を作成し、県内の各学校に配布するとともに、活用を促していきます。



Q&A集

昨年度は、中学校・高等学校の新学習指導要領に「がんについても取り扱うものとする」と明記されたことを受け、その内容の充実を図る必要があることから、新学習指導要領に対応したがん教育を推進するための指導資料の作成を始めました。また、がん教育において、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、医療従事者や、がん経験者などの外部講師の活用が効果的であ

ることから、県立高等学校等への外部講師派遣事業を実施しました。

そこで、今回は、多くの学校が「外部講師を活用したがん教育をやってみよう！」という気持ちになっていただけるよう、昨年度、外部講師を活用したがん教育の実践に取り組んだ高等学校の実践を紹介します。

○外部講師を活用したがん教育の具体的実践

(1) 薬剤師を活用した

福岡県立若松商業高等学校の実践

本実践では、生徒が、がんに対する正しい知識を学ぶために、薬剤師の方を外部講師としてお招きし、専門的な立場から話をいただきました。

授業では生徒が興味関心をもって授業に取り組めるように、クイズ形式を取り入れ、がんそのものの理解が深まるように工夫されて



薬剤師によるがん教育の様子

いました。生徒からは、「適度な運動、睡眠、食生活に気をつけようと思った。」や「講義を聞くまでは、がんに対して悪いイメージをもっていたが、明るく、前向きに考えることができるようになった。」などの感想があり、がん教育のねらいを十分達成できたと考えます。

(2) がん経験者を活用した

福岡県立田川科学技術高等学校の実践

本実践では、生徒が、がん患者との共生や命の大切さを学ぶために、がん経験者の方を外部講師としてお招きし、経験に基づく実践について話をいただきました。授業では、御自身ががんと分かったときから現在に至るまでの心境の変化や、家族によるサポートの大切さについて話をいただいたことで、生徒一人一人が自分や家族の健康について真剣に見つめ直すきっかけとなりました。生徒からは、「2人に1人の確率でがんを患う



がん経験者によるがん教育の様子

と知り、人ごとではないと感じた。」や「一日一日を大切にしたい。命を大切にしたい。」「家族にがん検診を勧めようと思った。」「もし、自分ががんになったら、講師の方のように前向きに生きることができたらうかと思えさせられた。」などの感想があり、がん患者やその家族の方など、がん向き合う人々に対する認識を深めることができたと考えます。

○おわりに

紹介したように、がん教育では、がんそのものの理解やがん患者などに対する正しい認識を深めるために、医療従事者やがん経験者などの外部講師の活用が効果的です。外部講師には、医師や看護師、がん専門相談員、がん経験者などが考えられます。外部講師の派遣に関する情報は、福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課にお問い合わせください。また、がん教育を実施する上で、配慮すべきこともありますので、詳しくは、先述の「学校におけるがん教育を推進するためのQ&A集」を参照してください。

【問い合わせ先】

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課
体育・健康教育班
TEL 092 (643) 3923
FAX 092 (643) 3926

グローバル人材の育成に向けた宗像市の取組

宗像市教育子ども部子ども育成課

はじめに

昨今、世界的にグローバル化が進行する中、国内においても世界に目を向け、将来様々な分野で中核的な役割を果たしていくグローバル人材を育成していくことが必要です。

宗像市では長年、小中一貫教育の推進やグローバル人材の育成につながる各種体験事業の実施など、教育環境の充実に力を入れてきました。グローバル人材育成に関連する事業として、本年度27回目を迎えるニュージーランドへの宗像市少年少女海外派遣研修や民間企業と連携したカナダ派遣研修、様々な分野で活躍されている方々を講師として迎えた宗像国際育成プログラムなどを展開しています。

また、市全体でこれらの事業をさらに発展させて取り組むため、平成27年(2015年)からスタートした第二次宗像市総合計画において「グローバル人材育成と国際交流の推進」を施策の一つとして掲げ、併せて「宗像市グローバル人材育成プラン」を策定し、産学官民で連携・協働しながら、本市の特色を生かした取組を推進してきました。

1 宗像市が目指すグローバル人材

本市全体のグローバル人材育成の効果を高めるため、

市が市民活動団体、民間企業などと連携し、「宗像市グローバル人材育成プラン」を推進しています。本プランでは、本市のグローバル人材育成の目標となる「グローバル人材像」を次のとおり設定し、3つの能力を養っていくことを目指しています。

「お互いを尊重し、そうぞう力を持って、世界とコミュニケーションができる」

1つは「お互いを尊重する」。自国の歴史や文化に対する考えを持ち、相手や他国の異なる意見、文化、価値観を受け入れることを大切にすることです。

2つは「そうぞう力を持つ」。「そうぞう」とは、創造・想像・宗像を表しており、故郷である「宗像」の歴史や文化に興味を持ち、いろいろなことに挑戦する力を持つことが重要であることを示しています。

3つは「世界とコミュニケーションができる」。自分の意見をしっかりと持ち、それを相手に的確に伝えられる力を身につけることが肝要であることを示しています。

市ではこれらの能力を涵養するために、様々な事業を学校教育と社会教育が連携して実施しています。

今回紹介する「むなかたガイド研修」は、自国・故

郷の歴史や文化について学び得たことについて、宗像を訪問した外国人に紹介するというもので、市が目指すべき人材像に必要な3つの能力を育んでいくものであり、総合力が試される研修となっています。

2 むなかたガイド研修

「むなかたガイド研修」は、文化をまたいだコミュニケーション能力や語学力の向上、外国語活用機会の創出、また主体的に外国人に宗像を案内しようとするボランティアガイドの育成を目的として、市内在住の中学生から大学生を対象に、毎年開催しています。

平成29年の「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録や2019年のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地決定によって、多くの外国人が宗像を訪れることが予想されることから、今回の研修では「おもてなし」を大きなテーマとして、全4回を通して外国人を「おもてなし」するために大切なことは何かを学びました。

(1) ガイド実施までの準備

第1回研修で、参加者はワークショップを通して「相手のコミュニケーションが上手くない時がある」



自分のコミュニケーションの癖を分析



「外国」という言葉から連想したイメージマップづくり



留学生をガイドする参加者

【問い合わせ先】

宗像市教育子ども部 子ども育成課 グローバル人材育成係
 担当：舩越、占部
 TEL 0940 (36) 1214
 FAX 0940 (37) 3046
 E-MAIL k-ikusei@city.munakata.fukuoka.jp

ことに気づき、コミュニケーションを図る上で必要なことについて考えました。参加者は、自分のコミュニケーションの癖や、「相手の意図を読む」ことの難しさと大切さを学びました。

第2回研修では、講師からの「外国ってなに？」という質問をきっかけに、知らないうちに自分が持っていた外国や外国人に対するイメージに気付いていきました。外国人を特別視することなく一個人として向き合い、上手く接するには何が必要なのか参加者同士が話し合いを通じて考えました。

(2) 留学生との本物の体験を通して

第3回研修では、留学生を宗像大社に案内しました。この研修では、ガイドされる役の留学生に対して事前に、「写真に写っている場所を一緒に探してほしい」「絵馬を書きたい」「鯉にスナックをあげたい。」等、宗像

大社でやってみたいことを考えて参加してもらいました。

一方でガイド役である参加者には前述の内容を知らせずガイドに臨んでもらっています。「おもてなし」で大切な、相手がしてほしいことを汲み取り、またやってはいけない行動についてきちんと説明し、やめてもらうことができるかどうかをガイドを通して学んでもらいました。

参加者は言葉がわからなくても身振り手振りで、何とか相手の意図を理解しようとしていました。また、相手のやってみたいことをすべて叶えるのが「おもてなし」ではなく、自分たちの文化を理解してもらうことも「おもてなし」につながるということを参加者は実感したようです。遠慮がちな様子もみられましたが、それぞれ自分なりに努力して意思をはっきり伝えることができていました。

終わりに

この研修を通して、外国人に対する心のブレーキを取り払い、日頃のコミュニケーションについても見直すきっかけになった参加者が多く見受けられました。また、参加者の中には「将来この研修で体験したようなことを学びたいのですが、大学ではどの学部に行けばいいですか？」と講師に尋ねた人もおり、これからの進路や行動について、大きく考え直すきっかけになりました。

宗像市はこれからも、語学力やコミュニケーション力を身につけるだけでなく、自国の文化を学び、異国の文化に触れる機会の充実を図りながら、市全体でこれからのグローバル化に対応した取組を進めていきます。

子どもの気持ち

福岡県立福岡高等視覚特別支援学校

特別支援教育課

「出会う」

高等部普通科3年

小江 匠矢
おえ たくや



「なんで白いの？なんで金髪なの？」
私と初めて会った人は、そう口にします。体の色素が足りず、太陽による皮膚の損傷を起すアルビノという病気を受け入れることができず、人を避けたり、恨んだりするうちに、学校に行きづらくなり引きこもりがちになっていきました。また、なぜ自分をこんな風に産んだのか、なぜ兄と同じように野球ができないのか、両親を恨むこともありましたが、両親が本当に心配してくれていることを知っていたので、ただ我慢するしかありませんでした。

そんなある日のこと、母から「アルビノの会」というものが大阪で開催されることを聞き、参加してみました。そこでは、自分と同じように色々な悩みを抱きながらもすっかり生きている方々について知ることができました。また、本校卒業生でアルビノの方と話す機会があり、前向きに楽しみながら生きていくほうが良いことを教わることでできました。これらの人との出会いを胸に、これからの人生、しっかりと前を向いて歩いていこうと思っています。

「夢に向かって」

高等部普通科
(平成30年度卒業)

江崎 安美
えさき あみ



私は、小学校2年生のときに病気を発症し、視力が低下し、体力も落ち、様々な運動制限を受けました。他にも、暑いところや湿気が多いところも避けなければなりません。高校生になり、将来の進路について色々考えるようになり、室内でできる仕事をしようと思いましたが、高校2年生の夏に、職場体験として先生から市役所を紹介され、5日間の実習を行いました。パソコンや書類作成、館内放送、ファイルのラベル貼り、書類の整理などを体験することができました。

私は、「こんな職場で働きたい」と強く思い、周りに相談するとみんな応援してくれ、週に1度塾に通うようになりました。それ以外の日でも家庭や学校で勉強や面接指導を受け、市役所と福岡県職員の試験に見事合格することができました。

この試験で、筆記と同じかそれ以上に面接試験が大切であることや「早めの進路目標の設定とその取りかかり」、「粘り強く夢に向かって努力を続けること」が合格への重要なポイントでもあると感じました。

最後に、ご指導くださった多くの先生方、そして何より家族の協力のお陰で自分の夢を実現することができました。今度は、私が夢の架け橋になれるよう頑張ります。

「出会う」

高等部専攻科
(平成30年度卒業)

桜井 美紀
さくらい みき



私は、一人娘を育てるために大好きなトラックに乗り、働いていましたが、目の病気になるに突然楽しい日々が失われました。

娘が大学を卒業したとき、気持ちがあふと軽くなり、本校への入学を決意しました。入学するまでは、暗くて怖いところだと思っていましたが、実際は想像とは全く違い、明るいいところでした。そして、何十年ぶりに勉強を始め、「あんま師になる」という夢を持ちました。

2年生も半ばを過ぎたとき、今度は違うところの病気になる、入院することになりました。完全にやる気を失い、「学校は諦めよう」と思っていたとき、クラスメートからの「待っているからね」というメールに、私は目が覚めました。

目の病気のときは、娘がいたから乗り越えられました。今度は、最高のクラスメートと先生方に会えました。それから、リハビリと検査の毎日。辛いときは、クラスメートのメールを見直しながら、約束を果たしたい一心で戻ってきました。

私は今45歳。後輩もできました。かつて自分が頑張れたように、今度は私が他の誰かの励みになれるようになっていきます。ありがとうございます。そして、
「ただいま」

「共創しよう！教育の未来」 ～教育センター経営方針及び事業の紹介～

福岡県教育センター

1 はじめに

教育公務員特例法の一部改正（平成29年4月1日施行）により、校長及び教員としての資質に関する指標を定めることが任命権者に義務付けられました。本県においては、これまで実施していた教職員の基本研修を見直すとともに、育成指標に基づいた効果的・効率的な研修の体系化を図るべく、平成29年7月に教職員研修協議会を立ち上げ検討を行い、福岡県教職員育成指標が策定されました。

新しい研修体系においては、「経験ステージに応じた研修内容の重点化」「重複した研修内容の統合」「分散・弾力化・免除等による負担軽減」を図ることを踏まえ、新しい研修計画が整理され、義務教育においては「学校支援」を各教育事務所が担い、「研修」を教育センター及び体育研究所等が中心となって担うことになりました。

以上の経緯から、教育センターで実施してい

る「研修」「研究」「支援」の各事業において、福岡県教職員育成指標に基づき、「教職員一人一人の確実なキャリアアップ」と「教職員や学校等の自律的で主体性のある研修・研究」の実現のために、『福岡県の教育の未来を学校現場の先生方と共に創る』という考えの下、各事業の更なる充実と更新を図っています。

2 教育センターの経営方針

本年度から教育センター各事業の充実及び更新を図るために、経営の基本方針と重点目標を次のとおり定めています。

【基本方針】

本県の教育大綱及び学校教育振興プランの下、本県の学校教育の目標を達成するため、県内の各学校等が、社会の変化や子供、学校、地域等の実態に応じ、本県の特徴を生かした教育活動を自律的に創造及び推進できるように、「研

修」「研究」「支援」を中心とした教育センター事業の充実及び更新を図ります。

(1) 教職員一人一人のキャリアステージや職務に応じた資質・能力を育成するために、福岡県教職員育成指標を踏まえた研修を体系的かつ効果的に企画及び実施します。

(2) 現代的な教育の課題や本県の教育課題及び経営課題に応じた実践的な調査研究を各研究協力校と協働して行い、地域の研究推進の拠点を創造するとともに、研究成果の県内学校等への発信及び普及を図ります。

(3) 本県の教育施策や教育課題に応じた教育資料や書籍の収集・活用の促進及び最新の教育情報の発信並びにその他教育センターの教育資源を生かした学校支援を行います。

【本年度の重点目標】

■新しい研修体系に基づいた各研修等の円滑かつ効果的な実施

■経営方針に基づいた各事業の運営及び改善を

図るための検証改善サイクルの確立

■教育情報等の発信を効果的に行う教育センターホームページの改編・更新

■教育センター職員の力量向上を図る意図的・計画的な研修等の実施

3 事業の紹介

【研修事業】

・基本研修

キャリアアステージに応じた基礎的・基本的な資質・能力の向上のために、研修内容の充実を図ります。

・専門研修（福岡教師塾）

県の教育をリードする教員の養成を目指し、幅広い視座から学校経営に携わるリーダーに必要な資質・能力の育成を図る「新たな教師塾」を企画しています。

・専門研修（ミドルリーダー養成講座）

職務や学校種等に応じた高い専門性とミドルリーダーに必要な資質・能力の向上を図るとともに、研修成果を学校や地域等に還元できる意欲とスキルを高める講座を企画しています。

・専門研修（キャリアアップ講座）

「指導者に必要な発展的な資質・能力」や「新学習指導要領や新たな教育課題に対応できる

資質・能力」「講師や若年教員の基礎的・基本的な資質・能力」など、育成指標に基づき、対象やキャリアアステージを明確に位置付けた新たな講座編成や、研修成果の学校や地域等への還元を共創できる講座内容を企画しています。

・長期派遣研修

様々な教育分野の専門性を高め、学校及び地域等の研修や研究を推進できる教員を養成するために、研修内容や研修形態を工夫し、長期派遣研修員が有する経験や力量を生かした主体性のある研修を企画しています。

【調査研究事業】

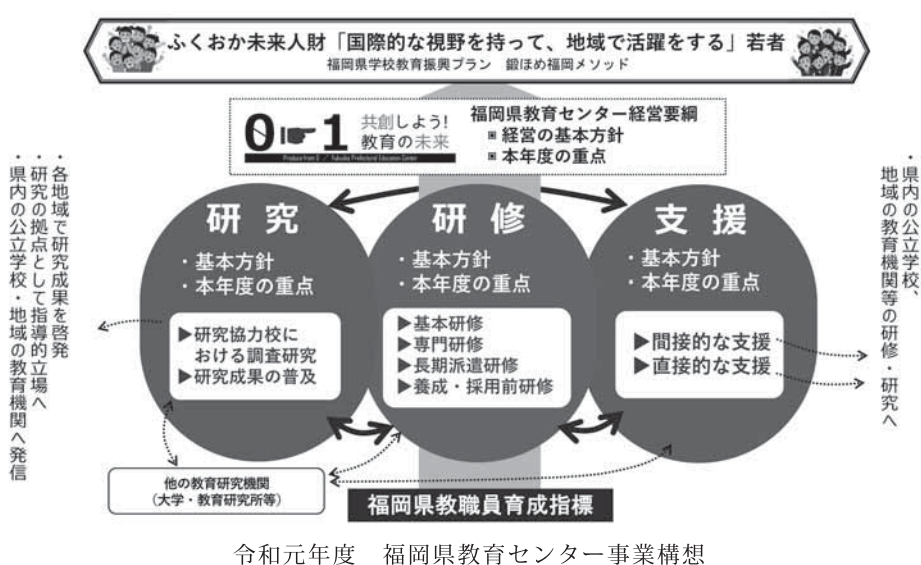
現代的な教育課題・経営課題に応じた「実践的な調査研究」を行い、各地域の研究推進の拠点を、研究協力校の先生方と共創するとともに、研究成果を積極的に活用し、発信、普及を図ります。

【学校支援事業】

学校等の教育課題に応じた直接的な支援及び各学校等が自律的で主体性のある研究や研修ができるように、間接的な支援の充実を図ります。特に、若年教員の資質・能力の育成に役立つ指導案等の教育資料や書籍の収集及

び教育に関する最新情報の発信、また、教育センターの研修をパッケージ化した資料等を配信し、学校等へ研修成果を還元できるように支援します。

本年度大きく変化する教育センター各事業への御理解と御協力をよろしく願います。



令和元年度 福岡県教育センター事業構想

教育施設
からの
事業だより

所蔵検索システム (Web OPAC) の リニューアルとブックトークのすすめ

福岡県立図書館

福岡県立図書館では、平成31年2月に図書館システムのリニューアルを行いました。その中において、より便利となった機能について御紹介します。

また、子どもの読書活動への支援として様々な取り組みを行っています。その一つである「ブックトーク」について御紹介します。

1 所蔵検索システム (Web OPAC) 機能の リニューアル

図書館システムの更新に伴い、福岡県立図書館ホームページの所蔵検索システム (Web OPAC) のデザインを一新し、より便利に検索しやすくリニューアルしました。

機能の主な変更点は、従来それぞれで検索していた「郷土関係雑誌記事索引」・「福岡県関係人物文献検索」を所蔵検索システムに統合したことです。

これにより、福岡県に関する資料を検索する際に、詳細蔵書検索にてキーワードを入力すると、図書や雑誌だけでなく、雑誌記事や人物文献等を横断的に検索できるようにしました。

福岡県にゆかりのある人物の資料や福岡県に関連する雑誌記事の探し方は次のようになります。



図1 ファセットブラウジング機能の表示画面

所蔵検索システムの詳細蔵書検索画面において、入力ボックスに探したい人物名やキーワードを入力します。最後に青色で表示している「検索」ボタンをクリックすると、検索結果一覧が表示されます。

検索結果一覧を絞り込む場合は、左にある「絞り込みキー」より「郷土雑誌記事」や「人物文献」を選んでください。検索した結果をもとに関連するキーワードを左側に表示するファセットブラウジング機能は、今回のリニューアルから運用しています (図1)。

さらに、今回のリニューアルでは、検索キーワードを入力している途中で、キーワード候補を予測して自動的に表示するキーワードサジェスト機能を追加しています (図2)。表示されるキーワード候補は、福岡県立図書館で所蔵している書誌情報・雑誌記事情報等をもとに作成しています。

なお、従来運用していた福岡県立図書館と九州歴史資料館に所蔵している古文書を調べることができるデータベース「古文書等検索システム」についても、この所蔵検索システムに統合しました。

リニューアルした所蔵検索システムを、ぜひ御活用ください。今まで知らなかった資料に出会うことができます。 (郷土資料課)

わくわくキャンプ

福岡県立英彦山青年の家

1 事業概要

本事業は、福岡県内に住む聴覚に障がいのある小中学生を対象に、自然豊かな社会教育施設で宿泊をし、自然体験活動を行ったり、子ども同士、または、大学生・青年の家の職員等と交流したりすることで、新しく出会った人とコミュニケーションを図りながら人間関係を育成することを目的としています。

2 活動プログラム（平成30年度）

- ・日時 平成30年12月1日（土）～2日（日）
- ・会場 国立夜須高原青少年自然の家・サンビレッジ茜
- ・参加者 小・中学生26名
- ・活動内容 学生ボランティア14名 講師2名

【1日目】

出会いのつどい、自己紹介すごろく、林間ボブスレー、野外調理、森の写真立て作り、振り返り

【2日目】

人工芝スキー体験、振り返り、別れのつどい

3 事業の様子

本事業は、「鍛ほめ福岡メソッド」の手法を取り入れたものとなりました。開始前には「自己紹介を考えること」「準備を自分ですること」等を課題に設定することで、チャレンジする気持ちを高めながら参加できるようにしました。

キャンプ初日。まずは、事前課題としていた自己紹介をグループで行いました。「自己紹介すごろく」という、駒が止まったらマスに書いてある問いに答えていくというゲームです。子どもたちは、事前に考えてきた内容を手話や口話で一生懸命伝えようとし、見事にゴールした子どもはグループの全員とハイ

タッチをして盛り上がりまりました。手話ができる講師や大学生が間に入ることで、グループ全員がお互いのことを理解することにつながりました。

次に、「鉄板焼きそば」「豚汁」を作る野外調理を行いました。活動の課題を、手話で会話する子どもと口話で会話をする子どもの交流としました。子どもたちは、活動の中で友達と多く会話をするという目標を各自で立てました。

友達と協力しながらなるべく子どもたちの力で活動を進めていけるように、最初に作り方を絵や写真で示し、いちよう切りや短冊切



自己紹介すごろくをしている参加者

りといった野菜の切り方や、薪の割り方等の指導も行いました。また、課題の解決につながるように、グループで一人一人の役割を決めたり、作り方の確認をしたりする話し合いを行いながら、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるようにしました。活動中も分からないことは互いの方法で会話をし、伝わりにくいときはボランティアにアドバイスを受けながら会話を進めていきました。その結果、これまでなかなか会話が進まなかった子ども同士も、課題を意識しながら活動することで会話が増え、互いに教え合ったり、認め合ったりしながら料理を完成させることができました。できたときは、笑顔やガッツポーズで「できた」と達成感を表していました。みんなで食事をしたとき

は「おいしい」と伝え合い、互いに協力できたことによる嬉しさを感じていました。子どもたちは、「友達が野菜を切るときにアドバイスをしてくれて嬉しかった。」料理



野外調理で役割を話し合っている参加者

をあまりしたことがなかったけど、友達にやり方を尋ねながら、ごぼうの皮をとったり、人参を切ったりすることができた。」という振り返りが見られていました。

キャンプ2日目は、場所をサンビレッジ苗に移動して、人工芝スキーを行いました。斜面が急で怖いと思うこともありますが、ボランティアと協力しながら勇気を出して最後まで滑ることを課題としました。子どもたちはこれまでの経験から3つのコースに分かれ、補助してもらいながらゆっくり滑ることや一人で滑られるようになること等を目標とし、活動を行いました。活動の中では、初めは怖がっていた子どもが、がんばりを講師やボランティアに褒めてもらうことでどんどんやる気を出し、滑る距離を伸ばしていきました。最後には、ボランティアが子どもたちの後を追いかけないといけないほどに早く遠くに滑ることができるようになりました。その後の振り返りでは、「たくさん転んだけど、褒めてもらってどんどん滑られるようになって嬉しかった」「スピードが出て怖かったけど、一人で滑られるようになった」等、始めはできなかったことでも周りの人に褒めてもらうことができるようになったことを多くの子どもたちが発表していました。

活動の最後には、新しくできた友達と別れ

を惜しんだり、講師やボランティアにお礼を言ったりする姿が多く見られ、本事業を通して新しく出会った人との人間関係が深まったと感じました。



ボランティアと協力して練習している参加者

(成果)

- ・ 鍛ほめ福岡メソッドを活用したプログラムを実施したことで、目標を持ち、主体的に活動を行うことができ、どの子も達成感を味わうことができました。

- ・ 相手に分かりやすいように自分の考えを伝えることで、コミュニケーションが充実し、新たな人間関係を形成することができました。

(課題)

- ・ 手話や口話等の会話方法が異なる子どもたちのコミュニケーションがより進む手立ての開発が必要であると感じました。

教育施設
からの
事業だより

史跡指定から100年を迎えた大宰府史跡と、 これから始まる戦争遺跡の調査

九州歴史資料館

大宰府発掘50年事業と

史跡指定100年事業

平成30年は、大宰府史跡の発掘調査が始まってから50年の節目の年でした。九州歴史資料館ではこれを記念して、大宰府史跡保護のあゆみを振り返り、大宰府史跡のことをもっと深く知り、より親しんでいただくために、関連機関と協力してさまざまなイベントを開催しました。

大宰府を「見る」

― 展覧会とAR・VR体験 ―

平成30年4月24日から6月17日の間、九州歴史資料館では特別展「大宰府への道―古代都市と交通―」を開催しました。

大宰府は、7世紀から12世紀にかけて、我が国の国防や外交、九州地方統治の役割を担った役所です。近畿に置かれていた中央政府をはじめ、九州島内、南西諸島といった国内各地だけでなく、中国や朝鮮

半島など海外との交通のかなめとして、大宰府は大いに繁栄しました。この特別展では、発掘50年の調査成果をもとに、古代都市としての大宰府や、大宰府へといたる古代の官道、大宰府を往来した人や物資、海を越えた東アジアとの交流を紹介しました。

特別展開催に先立つ3月18日には、「古代国家と道」と題したプレ講演会を、開催期間中の6月3日には「大宰府への道―文明のクロスロード―」と題した記念講演会を開催しました。講演会には関東や関西で活躍する研究者をお招きし、古代大宰府の重要性について最先端の研究成果をもとにお話いただきました。九州歴史資料館で毎年開催している九歴講座



発掘50年記念特別展
「大宰府への道」

では、大宰府にちなんだテーマの講座を特別展にあわせて6回連続で開催し、多くの方々に、特別展の内容をより広く、深く理解していただくための取組を行いました。

平成30年度中には、館内展示だけでなく、大宰府史跡や発掘調査の成果をより広く紹介するためのパネルを作成して、県内各地域の文化施設で展示する、巡回パネル展も開催しました。

この他、九州国立博物館や太宰府市文化ふれあい館、大宰府展示館でも発掘50年を記念した展覧会が開催されるなど、関連各機関と連携してより多くの方に大宰府史跡のことを知っていただくための取組を行いました。

大宰府政庁のそばに建てられている大宰府展示館では、かつて大宰府政庁に建ち並んでいた壮大な建物を体感していただくために、コンピュータを使って政庁の建物を現実のように再現した「西の都VRシステム」を設置しており、いつでも往時の姿を体感することができます。また、文化財保護課では、大野城跡に建ち並んでいた古代の建物群を再現した『大野城復元プロジェクト「ARで甦る古代建物群」』

を、3月15日～17日の3日間限定で開催しました。近年ではこのように、先進技術を駆使した歴史体験の機会も積極的に進めています。



大野城復元プロジェクト「ARで甦える古代建物群」

大宰府を「学ぶ」

—シンポジウムと講座—

平成30年11月10日には、大宰府市中央公民館にて大宰府史跡発掘50年記念シンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、昭和43年の発掘開始から今日まで、大宰府史跡の調査研究にずっと携わっていただいている、福岡大学名誉教授の小田富士雄

先生（大宰府史跡調査研究指導委員会 委員長）に、発掘調査が始まった頃の様子や次々と発見された発掘調査の成果、現在までの調査研究の到達点について、記念講演をいただきました。その後のシンポジウムでは、東京大学名誉教授の佐藤信先生（現、大宰府史跡調査研究指導委員会 副委員長）をコーディネーターにお迎えし、九州歴史資料館の職員をはじめ、大宰府市や古都大宰府保存協会の方々にも登壇していただいて、これまでの調査研究の成果や今後の展望について分かりやすくお話しいただきました。

九州国立博物館ミュージアムホールでは、古代東アジアに特徴的な青銅器「響銅」（非常に薄く精巧に作られた古代の青銅器）に関するシンポジウムが平成30年11月23日に行われました。また、12月15日には「展望・大宰府研究 大宰府の官衙―大宰府政庁官衙跡の調査から―」と題したシンポジウムが開催されました。このシンポジウムでは、現在九州歴史資料館が行っている大宰府跡蔵司地区の発掘調査成果を中心に、大宰府跡の周辺に広がっている古代の官衙遺跡群に関する学際的で中身の濃い議論が繰り広げられました。

そのほか、（公財）古都大宰府保存協会では発掘調査の成果をはじめ、大宰府跡の周辺にある宝満山や大野城跡のことなども併せて学べる、地域の方々に親しみやすい『もっと知ろう太宰府』講座が記念事業として開催されました。太宰府市でも『太宰府学講座「大宰府とは何か―大宰府研究50年のあゆみ―」を記念講座として開催し、大宰府史跡が持つて

いる多彩な魅力を多くの方々に学んでいただく機会となりました。

大宰府を「楽しむ」

—ウォーク・イベント—

平成30年11月11日には、大宰府史跡のフィールドを活かしたウォーク・イベント「大宰府史跡ものがたり」が発掘50年記念事業として催されました。大宰府政庁跡で行われた記念式典では、昭和43年の発掘調査開始時に執り行われた「鍬入れ式」も再現され、発掘調査50年の歴史の重みと責任を実感することができました。式典ではこの他にも、太宰府市立水城小学校で行われている「まほろば探検隊」の事業紹介や、「子ども史跡解説員」の認定証授与式、「大宰府検定」の上級合格者表彰や雅楽の演奏会、七種粥のふるまいなどが行われました。また、当日は、太宰府市内の各地に広がっている水城跡や筑前国分寺跡、観世音寺跡といった古代の史跡と、九州国立博物館、太宰府市文化ふれあい館などの文化施設を一日かけて散策できるように巡回バスも用意されました。各会場では史跡解説員や九州歴史資料館学芸員による解説が行われ、参加された方々には熱心に耳を傾けていただきました。ちょうどこの日は天候にも恵まれて、気持ちの良い一日を過ごしていただけたようです。



水城小学校「まほろば探検隊」の発表

史跡指定100年を迎えるにあたって

現在、県内には特別史跡も含めて、合計95件の国指定史跡があります。この数は全国でも奈良県に次いで二番目に多く、福岡県は日本を代表するような貴重な史跡に数多く恵まれている、と言えそうです。

我が国にはじめて史跡（当時は史蹟）が誕生したのは大正10（1921）年3月です。この時には、全国各地で重要な遺跡が史跡に指定されましたが、福岡県内では大宰府跡と水城跡がこの史跡指定第一号の一つとなりました。

2021年3月は、大宰府跡や水城跡が史跡に指

定されてちょうど100年の節目を迎えます。このことを記念して、九州歴史資料館では関連市町や各機関と連携し、さまざまな事業を企画します。今後各事業をとおして、大宰府史跡をはじめ、県内に数多くある史跡をより多くの方々に見て、学んで、楽しんでいただくことを願っています。



100年記念ロゴマーク

戦争遺跡の調査

「平成」が終わりを告げ、「令和」が始まりました。時は絶え間なく流れ、全ての「ひと・もの・こと」もまた変わっていきます。時代の移り変わりとともに歴史の記憶は風化するものですが、膨大な情報の

波が行き交い、瞬く間に記録が上書きされる21世紀においては、特に意識して歴史を記録し、伝える努力をしなければ、何もなかったかのように失われます。それは先の戦争の記憶も例外ではありません。直接、戦争を語るができる人たちはやがていなくなり、戦争の記憶を刻んだ土地や建物も、何もせず放置すれば、朽ちて失われます。歴史は人が残さなければ残らないのです。

近年、文化財保護行政を取り巻く環境も大きく変化し、保護の対象となる「文化財」の範囲や時代も広がりを見せています。「とても古いもの」や「美しいもの」「立派なもの」だけが「文化財」ではありません。比較的新しい時代のもので、歴史的に価値（意味）のある様々なものが「文化財」として捉えられます。

福岡県では、近代の産業文化財について「日本近代化遺産総合調査」として、秋田県、群馬県に次いで平成2年度から2ケ年にわたり調査を行い、平成5年3月、報告書として刊行しました。当時は、調査担当者が報告書にて記述しているとおり、「（前略）これらの産業文化財については保存措置がほとんど取られておらず、所在調査も不十分で、産業構造の変革や技術革新、経済効率の追求などにより、取り壊しや改変が進行している。（後略）」という状況でした。実際、報告書で紹介された施設の中には調査後失われたものもあります。しかし、近代以降の遺跡についても調査を踏まえた歴史的な価値付けが進むにつれて「文化財」としての認識が広がりました。

平成27年「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界遺産に登録された「官営八幡製鐵所」「三池炭鉱・三池港」や平成30年に国史跡として指定され、保護が図られた「筑豊炭田遺跡」のような施設もあります。

その後、「近代和風建築総合調査」（平成27年～29年度）などの調査を経て、平成29年度から、「福岡県戦争遺跡調査」に着手することとなりました。

福岡県では、平成29年度より3年をかけ、県内に所在する戦争に関連する遺跡の所在（悉皆）調査を実施しています。基本的に調査の対象は明治元年（1968）から、第二次世界大戦終結時の昭和20年（1945）までの間に作られた構築物などを対象としています。

「戦争遺跡」と言えば、砲台や要塞、飛行場などを連想すると思いますが、師団司令部や連隊本部などの政治や行政にかかる建物、陸軍造兵廠や航空機製作工場のような生産関係施設なども調査対象となります。また、空襲の被災地なども戦争遺跡と捉えています。

初年度は第一次調査として県内全市町村に調査依頼を行い、遺跡の一覧表を作成しました。2年目の平成30年度には、一覧表をもとに重要と考えられる地点をピックアップし、地元の市町村担当者や関係各位の協力を得て、現地調査を実施したところです。「下関要塞」関連の遺構や築城海軍航空隊関連の遺構、大刀洗飛行場、筑後飛行場などの飛行場関連遺跡、

小倉、福岡、久留米の陸軍の師団や連隊に関連する施設、本土決戦に向けて構築された陸軍の陣地跡など、現存する主要な戦争遺跡の現地に赴き、写真撮影や簡易な数値計測などを行い、現況での記録を行っています。

最終年度となる平成31（令和元）年度は補足調査を行い、整理をした上で報告書としてまとめ、刊行する予定となっています。報告書は県内市町村や図書館に送付し、活用することとしています。

平成31年4月、改正文化財保護法が施行され、総合的な文化財の把握と活用が明確に位置づけられました。今回の改正について、文化庁は「これまで価値付けが明確でなかった未指定を含めた有形・無形の文化財をまちづくりに活かしつつ、文化財継承の担い手を確保し、地域社会総がかりで取り組んでいくことのできる体制づくりを整備するため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図るものである。」と述べています。この「これまで価値付けが明確でなかった未指定を含めた有形・無形の文化財」の中には「戦争遺跡」も含まれます。福岡県においても、本調査を契機として、「戦争遺跡」を含めた広範な文化財の保護と活用を行い、歴史を記録し、次世代へつなげる取組を進めてまいります。



築城海軍航空隊 飛行場稲童 1号掩体（壕）（行橋市）



下関要塞 富野堡塁跡（北九州市小倉北区）

INFORMATION お知らせ

人権・同和教育課

「福岡県部落差別の解消の推進に関する条例」が施行されました

平成28年に、部落差別は許されないものであるとした「部落差別の解消の推進に関する法律」(以下「法律」)が施行され、地方公共団体は、その地域の実情に応じた施策を講ずるよう努めるものと規定されました。

こうしたことから、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現するため、平成7年に制定した「福岡県部落差別事象の発生の防止に関する条例」を改正し、「法律」に定められた基本理念や相談体制の充実、教育・啓発の推進などの規定を新たに加えた「福岡県部落差別の解消の推進に関する条例」を、平成31年3月1日に施行しました。

今後、県教育委員会は、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決と、一人一人がかげがえのない存在として尊重される社会の実現を目指し、学校や地域における人権教育・啓発の取組を推進していきます。

問い合わせ先

福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課指導班
TEL 092 (643) 3917
FAX 092 (643) 3919

社会教育課

黒田家文書についてのお知らせ

「教育福岡」平成30年2・3月号の「お知らせ欄」において、平成30年4月22日(日)の「朝鮮通信使関連資料のユネスコ『世界の記憶』登録記念シンポジウム」の案内を行っていましたが、その際に「このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです」という文言が抜けておりました。

お詫びして訂正いたします。

なお、福岡県立図書館で保管してきた黒田家文書はこの度九州歴史資料館に移管されました。今後は九州歴史資料館において保存・活用を図っていきます。

福岡県教育庁社会教育課総務・文化係
TEL 092 (643) 3886
FAX 092 (643) 3889

福岡県体育研究所

平成29・30・31年度調査研究事業 「運動」を通じた鍛ほめプロジェクト

福岡県体育研究所では、福岡県教育委員会の重点的に取り組む事業「鍛ほめ福岡メソッド」総合推進事業として、平成29・30・31年度の3年間で「運動」を通じた鍛ほめプロジェクトについて、調査研究に取り組んでいます。これまでの2年間で、研究協力校へ提供した「運動プログラム」の実践を通して、子供達の自尊心、規範意識、学ぶ意欲といった情意面や、持久力が高まっていることが明らかになりました。

本年度(研究最終年度)は、3年間の実践の結果を詳しく分析し、学力への効果について検証するとともに、本年度末には成果を県内へ発信してまいります。

福岡県体育研究所

〒812-0852
福岡市博多区東平尾公園二丁目一番四号
TEL 092 (611) 0220
FAX 092 (611) 1747
URL <http://www.taikukenkusho.ed.jp>

福岡県立少年自然の家「玄海の家」

子どもボランティアサークル「タイミング」

「玄海の家」では、本年度、子どもボランティアサークル「タイミング」に加わってくれる仲間を募集しています。玄海の自然にたくさん触れるキャンプを通して、集まった仲間や私たちと一緒に「ボランティア」について学びましょう。

期 日：第1回 令和元年6月29日(土)～30日(日)
第2回 令和元年9月14日(土)～16日(月・祝)
第3回 令和2年2月1日(土)～2日(日)

会 場：福岡県立少年自然の家「玄海の家」
内 容：川や海、林での自然体験活動
エコクッキング、釣川クリアンアップ作戦等

対 象：小学校4年生から中学校3年生まで

※原則として3回全てに参加できる児童・生徒

定員：36名程度
料 金：第1回 2000円
第2回 3500円
第3回 2000円

申込方法：往復ハガキ

(申込多数の場合は選考となります。)
申込期限：令和元年6月12日(水)当日消印有効

問い合わせ先

福岡県立少年自然の家「玄海の家」
福岡県宗像市神湊1276
TEL 0940 (62) 2511
FAX 0940 (62) 2513
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/genkai/>

放送大学福岡学習センター

大学院生・教養学部生募集

放送大学は、BS放送やインターネット(スマホ、タブレット等を含む)を通して学ぶ文部科学省・総務省所管の通信制の大学です。
教育実践に役立つ科目を1科目から受講できます。

【大学院・教養学部】
・特別支援学校教諭二種免許状や、専修免許状等上位免許状取得に利用できます。
・心理や教育、福祉などの幅広い分野から、大学院は約80科目、教養学部は約300科目を学ぶことができます。
・学生は、自己学習のeラーニングサイト「放送大学自己学習サイト」を利用できます。

○放送大学自己学習サイト教材例
・英語教材「TOEIC入門編、TOEIC実践編等」
・PCスキル教材「プレゼンテーションソフト PowerPoint、C言語スキル判定等」

※各学校には、本年5月に「教員のための放送大学活用の手引き(教科・免許編)」の冊子を一部ずつ配付しておりますので、上位免許状等の取得にご活用ください。

【資料請求・問い合わせ先】 放送大学福岡学習センター

〒816-0811 春日市春日公園6-1
(九州大学筑紫キャンパスE棟4・5階)
TEL 092 (585) 3033
FAX 092 (585) 3039



サイエンスラボふくおか

福岡県青少年科学館



巡回パネル展

「星座展〜ギリシヤ神話からキトラ古墳まで〜」

〔期 日〕 5月25日(土)〜6月9日(日)
〔内 容〕 国際的に決められている88星座の歴史を、星座を制定した人々や、黄道12星座にまつわるギリシヤ神話とともに紹介します。

星空教室

「夏の『大三角』から星座をさがそう〜夏の星座〜」

〔期 日〕 ①7月13日(土) ②7月20日(土)
〔時 間〕 11時00分〜12時30分
〔対 象〕 小学生以上
〔参加費〕 100円
〔定 員〕 30名
〔受付開始〕 ①6月13日(木) ②6月20日(木)

〔内 容〕 季節のおもな星や星座のさがし方をわかりやすく紹介します。また、プラネタリウムで星座探しの体験をすることができます。

市民天体観望会

「二重星と春の星座を楽しもう
月と木星の接近を楽しもう
7月13日(土)」

〔期 日〕 ①6月8日(土) ②7月13日(土)
〔時 間〕 ①20時00分〜21時00分
②ななだでも
〔対 象〕 (中学生以下は保護者同伴でご参加下さい)
〔参加費〕 無料
〔定 員〕 110名
〔受付開始〕 ①5月25日(土) ②6月29日(土)

〔内 容〕

9時30分受付開始
プラネタリウムでの星空解説後、屋外で天体望遠鏡を使った星の観察を行います。(天候不良時でも星空解説は行います。)

星と音楽の夕べ

七夕コンサート

〔期 日〕 7月6日(土)
〔時 間〕 18時30分〜20時00分
〔対 象〕 小学生以上
〔参加費〕 (中学生以下は保護者同伴でご参加ください)
一般600円 ペア券1000円
児童・生徒300円
〔定 員〕 230名
〔受付開始〕 6月6日(木) 9時30分受付開始
〔内 容〕 「星と音楽の夕べ」では、プラネタリウムで「星座巡り」と「生演奏のコンサート」をお楽しみいただけます。きらめく1000万個の星々と心地の良い音楽をゆっくり楽しむ・・・そんな贅沢な時間を味わってみませんか。

サイエンス教室

手作り乾電池教室

〔期 日〕 6月22日(土)
〔時 間〕 ①10時30分〜12時00分 ②13時30分〜15時00分
〔対 象〕 小学校1年生〜中学生
(小学校3年生以下は保護者同伴)
〔参加費〕 200円
〔定 員〕 各25名
〔受付開始〕 5月22日(水) 9時30分受付開始
〔内 容〕 電気を発生する仕組みや電池の安全な使い方や学び、キットを用いて乾電池を手づくりします

ものづくり工房

スペースロボ7

〔期 日〕 6月15日(土)
〔時 間〕 10時00分〜12時00分

〔対 象〕 小学校3年生〜中学生

〔参加費〕 2300円
〔定 員〕 20名
〔受付開始〕 5月15日(水) 9時30分受付開始
〔内 容〕 太陽の光で発電した電気をミニ二充電池にためて動くロボットキットです。7種類に変形でき、足や腕、タイヤなどの機構を作って学べます。

プログラミング教室

かんたんプログラミング

〔期 日〕 6月1日(土)
〔時 間〕 10時00分〜12時00分
〔対 象〕 小学校3年生〜中学生の子どもと保護者
〔参加費〕 300円
〔定 員〕 12組(子どもと保護者の2名で1組)
※当日、子ども1人での参加はできません
〔受付開始〕 5月1日(水) 9時30分受付開始
〔内 容〕 子どもと保護者の2人1組で教育用レゴマインドストームEV3を使って、簡単なプログラミングを行います。

科学工作教室

〔期 日〕 毎週日曜日・祝日
〔時 間〕 11時00分〜12時00分
14時00分〜15時00分
〔対 象〕 どなたでも
〔参加費〕 100円
〔内 容〕 簡単な科学工作(忍者スライム、アンモナイトレプリカなど)をします。

このマークのある教室や催しは、予約が必要です。実施日の1ヶ月前の9時30分から電話または直接来館の上、先着順に受け付けます。教室や催しに参加する場合、参加費のほかに入館料が必要です。ただし、土曜日は高校生以下の入館料は無料です。また、市民天体望遠会の入館料はどなたでも無料です。

石帯

せきたい

(太宰府市観世音寺出土)

まるとも
丸鞆じゆんぽう
巡方だび
鉈尾はくぎよく
白玉はくぎよくたい
白玉帯 (復元品)

奈良・平安時代の官人(役人)たちは、意外に思われるかもしれませんが、今でいうベルトを締めていました。それは腰帯や革帯ともよばれ、名前のとおり、腰に巻いた皮製の帯のことで、バックルとベルト穴もあります。そのなかでも革帯に石製の飾りをつけたものを石帯と呼びます。石の飾りには、方形や蒲鉾形、横長のものがあり、それぞれ巡方・丸鞆・鉈尾といわれます。飾りは石のほか、金銀や玉、ラピスラズリ(瑠璃)でできたものもありました。当時の役人は、身分や位階によって服の色や帯飾りの材質が決められていました。たとえば、大宰府の長官である大宰帥であれば、紫色の服に白玉帯を締めることになっていました。ですから、服装をみれば、その人が自分より高い位の人なのかどうか目でもわかりました。

大宰府に左遷された菅原道真の住まいとされる榎社周辺(太宰府市朱雀)では、三位以上の高官のみ身に着けることを許された白玉帯が数点出土しています。道真のものかどうかは確かめようがありませんが、このことからその周辺が上級官人の住宅街だったと考えられています。このたび、新年号「令和」の典故となったことで、『万葉集』梅花の歌の序文が一躍有名となり、その梅花の宴の舞台である大伴旅人邸の所在地が大きな話題となりました。榎社周辺も白玉帯の出土などからその候補地のひとつになっています。

大宰府の役所跡では、白玉帯はみられませんが、それ以外の多くの石帯が出土しています。その材質のほとんどが黒色の讃岐岩(サヌカイト)ですが、黒色や緑色を呈する蛇紋岩もみられます。「府の大寺」とよばれた観世音寺からは白玉帯の鉈尾が出土しています。

九州歴史資料館では、毎春、小学生の歴史学習に役立ててもらおう目的で、企画展「きゅうおにとタイムトラベル―大昔のくらしと国づくり―」を開催しています。そのなかでは大宰府の遺跡から出土した石帯も展示しています。今年度は7月15日までの開催です。